

奨学金と高等教育に関するアンケート

2020年11月1日(日)～30日(月)

＼ 学生の声を社会に届けよう！ ／

奨学金問題

アンケートにご協力ください！

みなさんの声を、困っていることを社会に届けます！

新型コロナウイルス感染症の影響で「学ぶことが十分にできない」「学ぶことを将来的にあきらめざるを得ない」という状況に追い込まれている大学生がいます（詳しくは裏面参照）。私たちの声を社会に届けましょう！

アンケート実施概要

回答期間

2020年11月1日(日)～30日(月)

実施方法

Google Formsを利用したWeb調査

回答URL：<https://forms.gle/DM3X5JzHU4ynobRXA>

対象者

大学生（学部生・院生・留学生のみなさんが対象です）



お問い合わせ先

全国大学生生活協同組合連合会 学生委員会

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協会館4F

Tel 03-5307-1124 Fax 03-5307-1180

E-mail nfuca-gakusei@univ.coop URL <https://www.univcoop.or.jp>

奨学金に関する学生の声（労働福祉中央協議会HPより）

奨学金が理由で自分が進みたかった職業への道が閉ざされつつある。
(21歳女性/大学生)

新制度になり、授業料免除が受けられなくなってしまった。
(19歳男性/大学生)

所得制限なし、無利子または給付型の奨学金が増えてほしい。
(20歳女性/大学生)

7月実施「緊急！大学生向けアンケート」での学生の声（弊会実施）

金銭的な問題に対処するばかりでまともに学業ができていない。休学を経験しており、奨学金の対象外(4年以内の卒業)なので奨学金にも頼れない。
(学部4年生)

貸与型奨学金を4年間かりる予定だが、利子も含めて高額すぎて将来が不安。
(学部2年生)

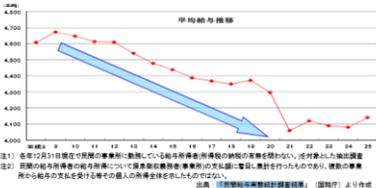
世界では、奨学金は「給付」が基本！

奨学金は、**教育の機会均等**、社会に出る前のスタートの平等につながるものであるから「給付」が基本です。日本でも公的な給付型奨学金が導入されましたが、貸与型奨学金が多いのが現状です。

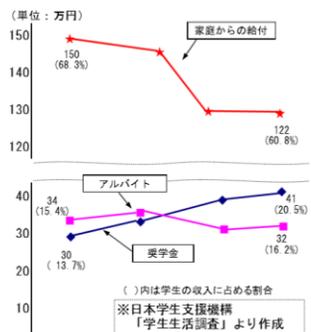
借りざるを得ない！

9. 高等教育段階における教育費の家計負担の増加

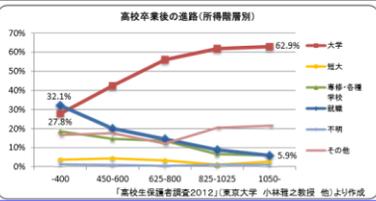
① 平成9年以降、平均給与は年々減少傾向。



③ 学生生活費における家庭からの給付は減少し、奨学金の受給が増加するなど、各家計の負担は限界を超えつつある。



② 両親の年収が少ないほど、4年制大学進学率が低く、逆に就職する割合が高い。



「平均給与は減少傾向、家庭からの給付も減少」しているのので、奨学金を借りざるを得ない状況です。

◀文部科学省「奨学金事業関係資料」より

高等教育予算が世界でも少ない！

2016年時点で、一般政府総支出に占める初等から高等教育に対する支出の割合は7.8%であり、これは **OECD平均を下回っています**。2010年から2016年の間に一般政府総支出は増加しているにもかかわらず、**公財政教育支出は減少**しています。